

記念誌の発刊にあたって

石川県巨樹の会

会長 田中敏之

長久の時間によって育まれた巨樹・巨木林は、緑の原点をなしている。

巨樹・巨木林は、永遠に我々に酸素を供給し、国土を護りながらすばらしい景観を形成し、動物達の生息の場ともなっている。

ところが、人間の開発優先の旗印によって、無造作に伐採、そして、姿を消してきたのが今の姿である。そのご都合主義は、いつの間にか巨樹・巨木林に対する心情を希薄にしてきた。

しかし、我国には鎮守の森として崇められ、自然と文化が共生している神域も大切に受け継がれてきている。いまはかけがいのない緑の点の存在となっている。

昭和六十三年（一九八八）に環境庁では「我が国の多様な自然環境を体形的かつ適正に保全していくために、全国 of 自然環境の現況や変化の状況を的確に把握する必要がある」という目的で、第四回の自然環境保全基礎調査が行われた。

本県では、初代会長里見信生金沢大学教授の御指導の下に、昭和五十三年（一九七八）から三ヶ年にわたり、県内の老樹・巨樹の実態調査が行われ、『石川県の巨樹』として発刊された。

この度、当会が設立二十周年の記念すべき年にあたり、これらを基に「石川の巨樹・巨木林」を上梓することが出来ましたことを感謝しております。

この少冊子が巨樹・巨木林の保護、そして、景観保全に活用され、ふるさとを再認識する契機になればと期待するものであります。

終わりにあたり関係各位並びに、現地で調査・測樹をされた方々、また、協力金等で御支援賜りました皆様に心から敬意と感謝を捧げて初頭の言葉といたします。

平成二十年四月